



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3257 号 2016.9.15 発行

論説：熱戦続くパラリンピック 選手の数だけ物語がある 佐賀新聞 2016年09月14日
 障害者スポーツの祭典パラリンピックの熱戦が、ブラジル・リオデジャネイロを舞台に繰り広げられている。出場者は159カ国・地域などからの約4300人。先月開かれたオリンピックに続く選手たちの全力プレーに、テレビを通じ観戦する私たちは何を感じ、何を学べばいいのだろうか。

「視覚障害は不便だけど不幸じゃない。一生懸命生きてると楽しいよ」。柔道男子60キログ級で銀メダルを獲得した広瀬誠さん（39）は娘を抱きかかえて喜んだ。

高校生の頃に病気で視力が悪化し、自転車に乗れず、本も読めなくなった。孤独になりがちな心を柔道の仲間たちや家族が支えてくれた。失意を乗り越えた選手は精神的にたくましい。それは心の支えとなる人がいるから発揮できる強さでもあるだろう。

家族と二人三脚の物語でもある。競泳男子100メートル背泳ぎで銅メダルに輝いた津川拓也さん（24）は他人とコミュニケーションが苦手な自閉症だ。息子のために何ができるか、母親が悩み抜いてたどり着いた答えが水泳だった。障害児の子育てで同じような経験に思い当たる人も多いだろう。パラリンピックに出場する選手も家族も身近な人たちといえる。

今回のリオ大会はテレビの放送時間も増え、選手たちの活躍をより多く目にできる。障害には身体や知的、聴覚や視覚などさまざまなものがあるが、出場選手の数だけ物語がある。

パラリンピックは五輪同様に勝負に徹する世界だ。象徴的な存在として陸上・男子走り幅跳びのマルクス・レーム選手（ドイツ）が注目を集めている。義足で出した自己ベスト8メートル40センチは4年前のロンドン五輪の優勝記録を上回っている。失った体の機能を補う道具や器具があれば、力を存分に発揮できる人もいる。

もちろん、人の支援は欠かせない。例えば、視覚障害者のマラソンを思い浮かべてほしい。伴走者がそばにいて、どのようなコースなのか、その先に危険はないのか教えてくれるからこそ、ランナーは前が見えなくても勇気を出して全力疾走できる。障害者が失った体の機能は、支える人との信頼関係で補える。

見るべきは技術だけではない。開会式で見た人も多いと思うが、雨中の聖火リレーでランナーが聖火を落とした。スタッフがすぐに拾ったが、観客の多くが心配して立ち上がった。こうした優しさを共有できるようになりたい。

このリオ大会で日本勢はメダル獲得で苦戦している。大会の精神からいえば、競技結果が全てではないが、日本以上に障害者スポーツの普及や啓発に力を入れる国が多いということだろう。日本の環境を見つめ直す必要もある。

トップクラスの選手だけでなく、多くの障害者がスポーツを自由に楽しめる環境があるのかどうか。障害者が練習や試合に向かうための公共交通は使い勝手がいいものか。施設はスロープやエレベーター、点字表示など障害者を考えた仕様になっているか。

4年後は東京がオリンピックとともにパラリンピックの舞台となる。障害者の行動を妨げる“バリア”はなく、世界基準に達したと言える環境になっているのか。東京だけでな

く、佐賀を含めた地方も問われている。(日高勉)

木村と山田、競泳で銅=国枝、3連覇逃す〔パラリンピック〕



時事通信 2016年9月14日
競泳男子100メートル平泳ぎ(視覚障害)の表彰式で銅メダルを手に笑顔を見せる木村敬一=13日、リオデジャネイロ

【リオデジャネイロ時事】リオデジャネイロ・パラリンピック第7日の13日、競泳男子100メートル平泳ぎ(視覚障害)の木村敬一(東京ガス)が銅メダルを獲得した。前日の50メートル自由形の銀に続く表彰台。同50メートル自由形(運動機能障害)でも、山田拓朗(NTTドコモ)が銅メダル

に輝いた。

車いすテニス男子シングルス準々決勝では、第6シードの国枝慎吾(ユニクロ)が第2シードのヨアキム・ジェラル(ベルギー)に3-6、3-6で敗れて3連覇を果たせなかった。国枝は斎田悟司(シグマックス)と組んだダブルス準決勝でも英国ペアに敗れ、3位決定戦に回った。



車いすテニス男子シングルス、準々決勝で敗れた国枝慎吾=13日、リオデジャネイロ

女子シングルス準決勝は、第2シードの上地結衣(エイベックス)が第4シードのアニク・ファンクート(オランダ)に3-6、6-4、5-7で競り負け、3位決定戦に回った。

アーチェリーのリカーブ個人(立位など)の上山友裕(三菱電機)は準々決勝で敗れた。陸上の男子1500メートルでは、視覚障害の和田伸也(賀茂川パートナーズ)が6位で、車いすの樋口政幸(プーマジャパン)は8位。

「諦めなくてよかった」パラリンピックでメダル続々

日本経済新聞 2016年9月13日

日の丸が次々と表彰台を飾った。リオデジャネイロ・パラリンピックで13日(日本時間)、競泳男子50メートル自由形でエースの木村敬一選手(26)が銀メダルに輝いたほか、ボッチャ団体も初のメダルとなる銀を獲得するなどメダルラッシュに。「諦めなくてよかった」。積み重ねてきた努力の末につかんだ栄冠に、選手たちは歓喜の声を上げた。

■競泳・木村、歓喜の銀 努力の虫 自信得て

【リオデジャネイロ=伴正春】ゴールから歓喜まで、少し間があった。「26秒52、2位だ」。競泳(視覚障害)50メートル自由形決勝のレース後、息を整える木村敬一選手(26)にコーチが結果を伝えた。その瞬間、木村選手は右腕を大きく振り上げて歓喜の雄たけびを上げた。

1歳半の時に失明し、ほとんど視力がない。決勝でも、スタート後に浮き上がったところで右のコースロープと接触。「これは大変だと思った」。だが落ち着いてコースを修正すると、「十分な練習をしてきたという自信があった」というラスト10メートルで一気に順位を上げ、メダルをつかみ取った。

水泳は10歳で始めた。上半身の強さを土台にスピードを身に付け、2008年北京大会でパラリンピックに初出場。ロンドン大会では100メートル平泳ぎで銀メダル、100メートルバタフライで銅を獲得した。

ただ、ロンドンで感じたのは自らの努力不足。「競泳への身のささげ方が足りない」との思いだった。コーチをつけ、トレーニングを飛躍的に増やした。

リオでのレース後は「1本目のレースで自己ベストが出てほっとしている」と控えめに喜びを語った。14日（日本時間）以降も100メートルバタフライなどに出場する。目標はいまだ手にしていない金メダルだ。

観客席では父の稔さん（57）が声援を送った。「（ロンドン大会以降の）4年間、努力を続ける姿を見てきた。メダルを期待されるプレッシャーの中、よく頑張った」とねぎらった。

■ボッチャ日本 歴史刻む銀 杉村「さらに上めざす」

【リオデジャネイロ＝伴正春】「スポーツとしてボッチャを広めるには、結果を残すしかない」。そう繰り返してきたボッチャチーム主将の杉村英孝選手（34）。大舞台で目標を達成し、「やってきたことを出し切れた。結果を誇りに思う」と胸を張った。

世界ランク1位が相手の決勝戦の最終エンド。杉村選手の最後の一投は狙いから外れた。天を仰ぎ、自らを納得させるように小さくうなずいた。

生まれつき脳性まひの杉村選手は「何かスポーツがしたい」と、高校3年生の時に教員に紹介されたボッチャを始めた。初めての大会で3位に入ったが「うれしさより負けた悔しさが勝った」。負けず嫌いに火が付き、競技にのめりこんだ。

勤務先の静岡県伊東市の介護関連施設には、床にテープを貼ってボッチャのコートを再現した専用の練習部屋がある。杉村選手は勤務後や週末に部屋にこもり、黙々と球を投げ続けてきた。

コート内では敵味方6人分のデータを頭に入れ、常に先を読む。藤井友里子選手（43）は「試合中も『いつも通りでいいよ』と声をかけてくれるので、落ち着いてプレーできる」と信頼を置く。

健常者や高齢者も一緒にプレーできるのがボッチャの特徴だが、国内競技者は数百人とどまる。杉村選手は4年後の東京大会を見据え「多くの人にプレーしてもらい、さらに上をめざしたい」と力をこめた。

■陸上400リレー念願の銅 山本の下に一丸

陸上男子400メートルリレー（切断など）で、チーム力を発揮した日本が銅メダルを獲得した。2012年ロンドン大会は4位。チーム最年長の山本篤選手（34）＝大阪府和泉市＝は「ずっと悔しい思いをしていた。最高のメダル。諦めずに走ってよかった」と喜んだ。

レースでは、第1走の芦田創選手（22）＝東京都新宿区＝が勢いよく飛び出し、佐藤圭太選手（25）＝愛知県豊田市＝につないだ。多川知希選手（30）＝東京都北区＝が粘り、山本選手が4着でゴール。1着でゴールした米国の失格が伝えられると、4人は驚いた表情を見せ、その後、喜びを爆発させた。

山本選手は若手に経験を伝える役割を担ってきた。金メダルを目指す走り幅跳びに励む傍ら、合宿でチームを引っ張り続けてきた。多川選手は「引っ張ってくれる。お父さんのようで、絶対的な存在」と慕う。

プライベートも仲が良く、チームワークが最大の武器だ。個々の走力で傑出しているわけではないが、バトン代わりになる、次走の選手に触るタッチを磨いてきた。「世界との差を埋めるにはそれしかない」（多川選手）と地道に練習を重ね、結果を出した。その姿は銀メダルを獲得した五輪の陸上男子400メートルリレーとも重なる。

山本選手は「熟成された最高のチーム。集大成となる銅メダルが取れた」と感極まった様子だった。

「多様性の国」ブラジルがパラリンピックに強い理由 日本経済新聞 2016年9月13日

ブラジルのリオデジャネイロで7日、パラリンピックが開幕した。成功裏に終わった五輪に続き、日本の反対側に位置する多様性の国に再び注目が集まる。国土は世界5位の851

万平方キロメートルで、日本の約 23 倍と広い。北部のアマゾン川流域には熱帯雨林が広がり、南部では雪が降ることもある。人種構成も多様で、宗主国だったポルトガルなど欧州だけでなく、アフリカやアジアからの移民も多い。世界最大の 190 万人の日系人社会があるのもこの国だ。文明社会との接触が



が少ない先住民も生活している。人口 2 億人のうち、混血は 4 割超に達する。一方で 2020 年に五輪・パラリンピックの開催国となる日本は島国で比較的同質性の高い国といえる。招致を機にダイバーシティ（多様性）を尊重する社会を目指す日本にとって、多様な人種や文化を内包するブラジルから学ぶ点は多い。

柔道女子 57 キロ級で金メダルを獲得したブラジルのラファエラ・シルバ選手（左から 2 人目）＝8 月 8 日、リオデジャネイロ（玉井

良幸撮影）

■多様性と課題、希望を象徴する選手

8 月 21 日の五輪閉会式。マラカナン競技場では大会のハイライトをまとめた映像が流れた。ひととき大きな拍手が巻き起こったのは、ブラジルに大会初の金メダルをもたらした柔道女子 57 キロ級のラファエラ・シルバ選手（24）が映し出されたときだった。それはシルバ選手が、ブラジルの多様性と課題、希望を象徴する選手といえるからだ。



柔道女子 57 キロ級で金メダルを獲得したブラジルのラファエラ・シルバ選手（8 月 8 日、リオデジャネイロ）＝玉井良幸撮影

シルバ選手はリオ市西部の貧民街（ファベラ）シダジデデウスに生まれた。五輪公園からほど近く、世界的にヒットした映画「シティ・オブ・ゴッド」（02 年製作）の舞台となった街としても知られる。銃撃戦が頻繁におきる場所だけに、なかなか外で遊べず、自分と同世代の子供が目の前で流れ弾によって亡くなった経験もあるという。当時を「目標なんかなかった」と振り返る。8 歳の時、日本からの移民が持ち込んだ柔道に出合ってけんかばかりの日々に別れを告げる。元ブラジル代表が指導する非政府組織（NGO）で練習を積み重ね、規律を学んだ。大会に参加するための旅費は周囲のカンパでまかなって力をつけてきた。

だからこそ閉幕後の 8 月 22 日には、消防車の上に立ち、金メダルを首にかけ、国旗を手にして、2 時間以上かけて地元をパレードした。雨の中集まった住民は「ファベラの金」と叫んでたたえた。シルバ選手は「ファベラの子どもたちも価値があることを証明できた。ロールモデルになりたい」と述べて、地元への感謝を口にした。シルバ選手の勝利の裏には、3 年前から一緒に暮らす元柔道選手の女性の恋人の存在もある。自身が性的少数者（LGBT）であることについては「自然なこと」と隠さない。

■五輪上回るパラリンピックのメダル数

リオ五輪でブラジル五輪代表は金 7、銀 6、銅 6 の計 19 個のメダルを獲得し、国別のメダルでは 13 位となった。13 カ国 23 選手の外国生まれの選手を含む 465 選手の「多民族代表団」は、過去最高の成績を残したものの、目標に掲げていたメダル合計 24 個、10 位以内には届かなかった。

実はパラリンピックでは、この目標をすでに達成している。12 年のロンドン大会でブラジル代表は金 21、銀 14、銅 8 の計 43 個のメダルを獲得して、国別で 7 位に入った。着実

に順位を上げており、日本（24位）を大幅に上回る結果を残している。米州大陸の障害者スポーツの祭典である、15年のパラパンアメリカンゲームズ・トロント大会では、米国やカナダを抑えて、トップに立った実績もある。

ブラジルの障害者スポーツが好成績をおさめている背景には行政の手厚い支援がある。01年に全国の宝くじの売り上げの2%をブラジル・オリンピック委員会（COB）とブラジル・パラリンピック委員会（CPB）に割り当てる法律ができた。今年からはその割合が2.7%に増えた。加えてこれまではCOBに85%、CPBに15%だったが、CPB向けの比率は37.04%に増えた。CPBはスポーツ省の補助金、連邦貯蓄銀行（CAIXA）によるスポンサー支援も得ている。13年から16年にかけての3年半で3億7500万リアルが投じられた。

ブラジルの五輪と パラリンピックでの獲得メダル数の推移

五輪						
開催年	大会	順位	金	銀	銅	総数
1996年	アトランタ	25	3	3	9	15
2000年	シドニー	52	0	6	6	12
04年	アテネ	16	5	2	3	10
08年	北京	23	3	4	8	15
12年	ロンドン	22	3	5	9	17
16年	リオデジャネイロ	13	7	6	6	19
パラリンピック						
開催年	大会	順位	金	銀	銅	総数
1996年	アトランタ	37	2	6	13	21
2000年	シドニー	24	6	10	6	22
04年	アテネ	14	14	12	7	33
08年	北京	9	16	14	17	47
12年	ロンドン	7	21	14	8	43
16年	リオデジャネイロ	5(目標)				

■混乱や貧困を知ってこそその寛容

そうした中で「障害者水泳のフェルプス」と呼ばれる地元のヒーローも育った。五輪の5大会で史上最多23個の金メダルを獲得した米国のマイケル・フェルプス選手とならび称されるのは、パラリンピックの過去2大会で10個の金メダルを獲得しているダニエル・ディアス選手(28)だ。生まれつき右肘から先と右膝から先がないなどの障害を持つが、豪快な泳ぎで知られる。

12年のロンドン大会で勝利して喜ぶディアス選手=ロイター

都市インフラだけをみればリオ市ではバリアフリーの環境が進んでいるとは言いがたい。歩道は段差やデコボコが多く、地下鉄駅では移動の足となるエレベーターのない駅が目立つ。欧米の主要都市とは比較にならない。それでも、障害者スポーツへの国家の手厚い支援は「ブラジルが多様性を大事にしていることの証左」(上智大学の堀坂浩太郎名誉教授)といえる。



政治や経済体制でも混乱が続く。8月31日にはブルガリア移民2世のジルマ・ルセフ大統領が罷免され、レバノン移民2世のミシェル・テメル氏が副大統領から大統領に昇格した。ルセフ氏が国家会計を不正執行したと議会が判断して同氏を罷免したためだ。政界を広く巻き込んだ国営石油会社を舞台とした不正献金疑惑は終わりが見えず、資源安を受けた景気低迷も依然として続いている。

そんな中で国民が求めていたのは「ブラジルの勝利」だった。国を象徴する男子サッカーでの初の金メダルに国民はもちろん歓喜の声を上げた。

しかし、それ以上にシルバ選手の「物語」に沸いた。それは、前回ロンドン大会の際にシルバ選手が中傷されたのを知っているからだ。五輪前年の世界選手権で銀メダルを獲得し期待を集めたが、五輪の舞台ではメダルには届かなかった。反則負けだったことなどから、直後にネット上で「猿はオリの中にいればいい」との言葉を浴びせられた。シルバ選手は今回、「猿がオリを出て、五輪の勝者になった」とコメントした。偏見に負けず母国開催で勝ち取った金メダル。混乱や貧困を身近に知る国民だからこそ、閉会式の観客は温かかった。(サンパウロ=宮本英威)

「肉体改造」も奏功=大阪府立大中心にサポートーボッチャ〔パラリンピック〕



時事通信 2016年9月13日
ボッチャ日本代表をサポートする大阪府立大教授の奥田邦晴さん。日本ボッチャ協会代表理事も務める=13日、堺市の大阪府立大

リオデジャネイロ・パラリンピックでボッチャ男女共通チーム(脳性まひ)の日本が、この競技初のメダル獲得を果たした。前回ロンドン大会の7位から大躍進した背景には、大阪府立大教授の奥田邦晴さん(59)を中心に徹底的にサポートした「肉体改造」があった。

理学療法士の奥田さんは障害者スポーツに長く携わり、重い脳性まひの選手が多いボッチャとの関わりも深い。今は日本ボッチャ協会代表理事として、日本代表チームの後押しに精を出す。

ロンドンの後、奥田さんは選手に問いかけた。「今までと同じトレーニングを続けたら、4年後の結果も同じ。勝った

めに体を変えよう」。世界レベルで相手の球をはじくには、遠投能力に加えパワーが求められる。筋力と体幹を鍛え、脈拍が上下するようなフィットネスも導入。大阪府立大の体育館で合宿を重ねた。

マット上で体をほぐすだけだったアップの際、寝返りを繰り返したり、うつぶせになって元に戻したりと、体に負荷をかけた。車いすは練習ではあえて電動式ではなく、手動式のものを使うことも。静と動のメリハリを体に染み込ませ、投球の精度が高まった。

不自由な体に対し逆効果のリスクが伴うようでも、「筋トレが影響を及ぼさないエビデンス（科学的根拠）にも基づく」と奥田さん。「選手たちはストイックに実行してくれた」と目を細めた。

【パラ】ドーピングはどう見分ける？

読売新聞 2016年09月07日



リオデジャネイロ入りした日本代表選手団（8月31日午前、吉岡毅撮影）

リオデジャネイロ・パラリンピックが日本時間の9月8日から始まります。パラリンピックへの理解は深まってきたとはいえ、まだまだ知らない部分が多いのではないのでしょうか。選手を取り巻く環境は変わった？ クラス分けの方法は？ 様々な疑問に、日本障がい者スポーツ協会の井田朋宏・企画情報部長が答えてくれました。

選手のクラス分けは怎么样了なっているのですか。

たとえば、かつて、陸上車いすの頸椎損傷の100メートルで、世界中で8人に満たなくても競技が

成立するクラスがありました。いまは、そういうレベルだとパラリンピックの種目として成立しません。予選があって決勝というのが基本的なスタイルで、競技性を高めています。

昔はクラス分けを現地で行っていたので、大会に入ってから「要件を満たしていない」として、参加できないケースもありました。いまは、事前に国際認定を受けた人しか出られないシステムです。レース直前での無念の欠場という悲劇はなくなりました。

また、かつては、「失格」「欠場」とならないまでも、クラス分けの変更で、競技日程が2、3日ずれることはしょっちゅうありました。お目当ての選手がいつ出るのか分からないのでは、チケットは売れません。いまは、五輪同様、競技日程は固定されてますので、選手は調整しやすいですし、運営側はチケットを売りやすいのです。

集団での海外渡航は大変ですか。

現地でクラス分けが行われなくなって、変わりました。昔は、選手団がまとまって開会



式の1週間くらい前に現地に入って、クラス分けの認定を受けました。たとえ、自分の出る競技が閉会式の直前でも最初から現地にはいないといけませんでした。200人、300人での移動は大変でした。コーチが選手を抱きかかえて、空港内を移動したこともあります。

いまは、分散して小所帯での移動なので問題ありません。競技によっては自分の出場する種目に合わせて、きょうは何人、3日後に何人、とさらに分散することもあります。そもそも、トップ選手は海外合宿などを積んでいますので、渡航慣れしています。リオ大会では、カナダやニューヨークで時差調整や強化合宿をしてから現地入りする選手もいるようです。

コパカバーナ海岸に作られたパラリンピックのシンボルマークを背に、笑顔で記念撮影をする人たち（2日午後、吉岡毅撮影）

常用薬とドーピングの関係はどうなっているのですか。

もともと障害を持っているアスリートは7割が薬を使っています。試合に出場するには、「治療目的の薬の使用」を大会ごとに届け出ないとはいけません。その際、たとえ治療目的でも、薬に筋肉を増強する成分があったりするとダメで、可能なら代替薬を処方してもらいます。いくら障害（病気）治療のためとはいえ、ダメなものはダメなのです。ドーピング検査の際は「こういう薬を飲んでいますが」と証明書を見せることになります。

選手村はどうなっているのですか。

五輪と一緒に。国際オリンピック委員会と国際パラリンピック委員会が協定を結び、2008年北京大会から、五輪を招致しようとする都市は、パラリンピックがついてくること分かっているのです。施設や移動手段などはすべてパラリンピックで使うことを想定して用意されています。食堂はメニューが少なくなります。これは、五輪とパラリンピックでは選手の数が違うためです。

【パラリンピック】記念硬貨で五輪を満喫 ボクシング、セーリングは手元に…

産経新聞 2016年9月13日

リオの街でよく見かけるパン屋「パダリア」。店内で朝食をとっていると、会計していた男性が大喜びした。おつりに記念コインがあったらしい。

リオ五輪・パラリンピックの記念コインは全部で36種類が発行された。10リアル4種、5リアルと1リアルがそれぞれ16種だという。一般に流通し、せめて「1リアルだけでも…」と多くのブラジル人が収集に熱をあげている。

1リアルには陸上や水泳、柔道などの競技が五輪のロゴとともにデザインされている。「交換してよ」。リオでは市民のあいさつ代わりにになっていた。“レアもの”の情報が出回り、全種類を数百リアルでふっかける売人も出現している。

会場には行けずテレビ観戦する人、競技に興味のない人も少なくないだろう。そんな人も、コイン集めのような盛り上がりを感じられるような工夫が、次の東京大会でもあればよいのではないか。

ふと財布を見ると、知らないうちにボクシング1枚とセーリング3枚の1リアルコインを持っていた。“完全制覇”は無理だが、誰かと交換してみようと思った。（

【パラリンピック】丸川珠代五輪相がリオから帰国 「非常に素晴らしかった」「(メダル数は)ちょっと厳しい」

産経新聞 2016年9月13日

丸川珠代五輪相 (伴龍二撮影)

丸川珠代五輪相は12日、リオデジャネイロ・パラリンピックの視察を終えて帰国した。丸川氏は羽田空港で記者団の取材に応じ、「オリンピックに劣らず盛り上がり、非常に素晴らしかった」と笑顔を見せた。

一方で、日本選手団の獲得メダル数が振るわない点については、「ちょっと厳しい。アジアも含めて相当レベルが高い。われわれも(4年後に向けて)強化していかなければならない」と険しい表情を見せた。

